I-5

現代建築作品の外観にみられる装飾的表現について
装飾パターンの分類からみた比較考察
On ornamental expressions in the appearance of modern architecture
Comparison study seen from the classification of ornamental patterns

○劉樹昆[1]，矢野裕芳[2]，渡辺富雄[3]
*Jukon Ryu[1], Hiroyosi Yano[2], Tomio Watanabe[3]

This study aims to grasp of tendency of ornament in recent years. We considered the examples were published in the monthly architectural magazine “SHINKENCHIKU” from 2009 to 2013.From among them, we selected 89 examples which were mentioned about ornamental expressions by designer.As seen from the Planar/stereoscopic composition and the pattern of ornament / the designing intent, we considerd tendency of the ornamnental expretion.

Keywords; tendency of ornament, pattern of ornament, architectural magazine “SHINKENCHIKU” , Designing intent, Planar/stereoscopic composition

1. 背景と目的

建築デザインにおいて，近年では特にポストモダニズム期にみられるような運動があったように，様々な装飾的表現が氾濫している．現代において装飾とデザインの境界は曖昧なものであり，この二者を明確に区分することは難しい．そこで本稿では曖昧に存在するデザインと装飾の表現のうち，装飾的な表現に着目し，現代においてそれがどのようにして社会に溶け込んでいるのかを調査し，それが近年どのような現状や傾向を示すのかを分析することを目的とする．

2. 分析対象及び方法

(1) 分析対象の選定

「新建築」2009 年 1 月号―2013 年 12 月号の 5 年間の全事例を調査し，うち 89 事例の分析対象を扱う．建築外観に装飾的表現が施されているもので，かつ設計者が設計主旨でその表現について言及している事例を全て抜粋した．

(2) 分析方法について

掲載誌より建築の基本情報や建築規模，用途，装飾的表現のパターン，使用素材，装飾的表現の表現手段，さらにそれらが如何なる意図で表現されたかを抜粋し分類することで，それら 89 事例分のデータから共通項を抽出して事例同士の関連を探る．

［装飾的表現について］　鶴岡[注-1)] より装飾的表現とは外観の素材表面の抵抗感や肌理として現れる「めまい」によって生じるものと定義する．

［装飾パターンによる分類］装飾的表現を構成する形式，内容とそれらの設計意図をいくつかの項目として以下のように分類する．

■平面装飾と立体装飾　ヴェンチューリ[注-2)] の提唱した「あひる」と「装飾された小屋」より装飾的表現の形式を平面的なものと立体的なものとして二次元と三次元の二つに分類する．

■装飾のモチーフ　素材表面の抵抗感や肌理をより際立たせる造形モチーフとして，ヴォリンガー[注-3)] やリード[注-4)] を参考にその項目を定める。まず，装飾モチーフの表現形式を有機的無機的に分け，それぞれを自然物と人工物と名称する．そしてそれをさらに細分化して定める．自然物（動物 / 植物 / 地学・自然現象 / 雰囲気 / その他）と人工物（建築 / 衣類 / 道具 / 模様 / 色 / その他）とする．

［装飾的表現の設計意図］　「めまい」は何を目的として引き起こされるのか，その意図を考察するために設計者の素材やモチーフの選定方法や選定目的に関わる発言のみを抜粋しカテゴライズする。そしてそれら抜粋したものを（空間 / 周辺環境 / 装飾 / 融合 / 見る / 表現 / 人）の 6 つに分類する．

3. 分析結果及び考察

(1) 装飾パターンと設計意図の関連

表 1 は, 89事例を通して装飾のモチーフと設計意図の相関関係を表しているものであり, どのような「モチーフ」×「設計意図」の組み合わせをもつのか表したものである. 装飾パターンに従って分類することのできた89事例それぞれが該当する組み合わせの欄に何事例あるのかなどを示している. そして89事例を通して得た重複項目も含め, 133項目を全体母数として, それぞれの組み合わせの割合表示をした. また各モチーフと設計意図の合計事例数, 各モチーフと設計意図の類似ワード分類による割合表示がされている. また, 図1, 2は表1の数値をもとにモチーフと設計意図ごとの示す傾向を示している.

［平面装飾と立体装飾］　分類項目の示す傾向より二次元50. 3%, 三次元49. 6%, と両操作はそれぞれ同じような値を示した. そのため, 近年における装飾的表現においては, それらの表現形式の使われ頻度に大差はないことがわかった. しかし, それぞれの設計意図に着目すると, 例えば平面操作の自然物のモチーフは空間のつながり方や周辺環境を考慮して用いられる事例が少ないのに対して, 自然的要素を付加することで建築物そのものに自然物の印象や存在感などといった性質を付加する事例が多いことがわかる. 対して, 立体操作の自然物のモチーフは空間のつながりや周辺環境を考慮したものが多く, 逆に自然物のもつ性質を表現しようとするものが少ないことがわかる.

［自然物と人工物のモチーフ］　自然物と人工物の項目に分類してみると自然物37. 5%, 人工物60. 9%を示す. 人工物の方が自然物のおよそ2倍近く使われ, 頻度が高いことがわかる. 自然物は三次元と二次元で共通する項目が多く, 地学・自然現象が合わせて24件あることが確認できる. 地学・自然現象のモチーフの選定理由と

1: 理工・院（前）・建築　　2: 理工・客員研究員・建築　　3: 理工・教員・建築

Table 1. Correlation of the design concepts and ornamental patterns

			空間				周辺環境				装飾		融合		見る		表現						人		事例数	モチーフごとの事例数	割合（%）	モーチフごとの割合（%）
			①開放感	②包む	③空間を連続する	④内部の雰囲気を感じる	①周囲に溶け込む	②周囲を引き立たせる	③境界を曖昧にする	④周辺と隔す	①ボリュームの純粋さの協調	②純粋な装飾	①人と建築をつなげる	②建築と自然物の一体化	①景観をつくる	②見る	①看板・メッセージ・象徴性の表現	②品格・風格の表現	③先進性の表現	④過去・現在の表現	⑤永続性・永遠性の表現	⑥存在感・力強さの表現	①感性に訴える	②記憶に残る				
3次元	自然物	①動物		1					1				1	2											5	26	3.8	19.5
		②植物			2		1							1		1									5		3.8	
		③地学・自然現象	1	2	1		1		1	2	1			4	1						1	1			16		12.0	
	人工物	①建築		1	1		5					1	1		4		1	2		3		1	2	1	23	40	17.3	30.1
		②乗り物														1									1		0.8	
		③道具								1							1			1				1	4		3.0	
		④様式			1		3					1			1			2		3				1	12		9.0	
2次元	自然物	①動物													1		1					1	1		4	24	3.0	18.0
		②植物										1		1		1	3	1	1				1		9		6.8	
		③地学・自然現象							1					3		1	1	1		1					8		6.0	
		④雰囲気														1		1		1					3		2.3	
	人工物	①衣類																		1					1	41	0.8	30.8
		②道具				1						1				1	2								5		3.8	
		③模様			1	3	3				1	2	1		1	1	4	2	1	1		2	1		24		18.0	
		④色				2	2	1							1	1	1			2		1			11		8.3	
	その他											1								1					2	2	1.5	1.5
事例数			1	4	6	6	15	1	3	3	2	7	3	11	9	8	14	9	2	14	1	6	5	3				
設計意図ごとの事例数			17				22				9		14		17		46						8					
割合(%)			0.8	3.0	4.5	4.5	11.3	0.8	2.3	2.3	1.5	5.3	2.3	8.3	6.8	6.0	10.5	6.8	1.5	10.5	0.8	4.5	3.8	2.3				
設計意図ごとの割合(%)			12.8				16.5				6.8		10.5		12.8		34.6						6.0					

して最も多いのは建築と自然物の一体化が7件であることから,建築という人工的な生産物と同化するようにして自然物の性質を取り入れようとする傾向があることが見られる.

(2)装飾モチーフの示す傾向

図1より,最も用いられる装飾モチーフは「2次元/模様」18.0%であることが分かる.これは平面装飾にて幾何学的な操作が多いことを表す。また,「3次元/建築」も17.3%という値を示し,建築を立体的に歪ませる事で建築物の一部を表現しようとするものが多いことがわかる.

(3)設計意図の傾向

図 2 より各設計意図をみて見ると「周辺環境の周囲に溶け込む」が 11.3%と大きな割合を占める．そして次に設計意図を大まかに分類した際に「表現」のカテゴリーが 34.6% と大きな割合を占めている．建築の装飾的表現に伴って外観は施主などのキャラクターやメッセージを表現しようとする傾向があることが分かる．また，「装飾」は 6.8% の値を示している．これはやはり現代において直接的な装飾表現の事例が少ないことを示す．

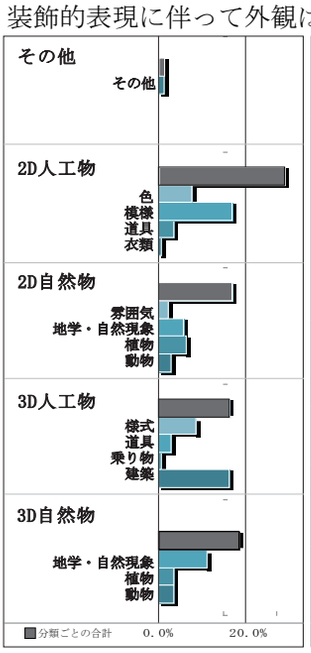

Fig 1. Tendency of the ornamental motif

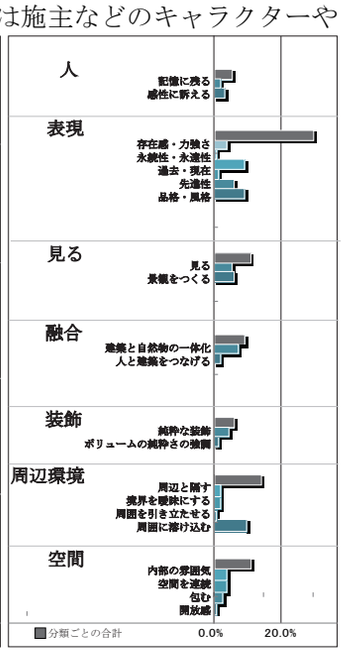

Fig 2. Tendency of the design Concept

4. まとめ

本稿では，装飾的表現を立体操作，平面操作の（三次元，二次元），さらにそれらをそれぞれ有機的モチーフ，無機的モチーフに分けた．

これによって分析を進める中で装飾モチーフとしての自然物（動物 / 植物 / 地学・自然現象 / 雰囲気 / その他）と人工物（建築 / 衣類 / 道具 / 模様 / 色 / その他）設計意図としての（空間 / 周辺環境 / 装飾 / 融合 / 見る / 表現 / 人）の分類結果を得ることができた．

最も多い装飾パタンの分類項目は「平面装飾」の「人工物」であることから，装飾的表現は建築の表層で用いられることが多く，また，最も多い設計意図が「表現」だったことから，現代における装飾的表現はテナントの商品イメージや施主のキャラクターを表したものが多いことが分かる．

今後の課題としては，「新建築」に関わらず，情報を蓄積することが必要と考える．

参考文献

[1] 藤岡杏，他：「現代建築における表層的装飾に関する研究」日本建築学会　大会学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠 2010，847-848
[2] 玉井洋一，他：「現代建築作品の外装に見られる装飾的な表現 」日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2，意匠論・形態／表現 2002，講演番号 9273
[3] 山崎正和著「装飾とデザイン」 中央公論新社 2007
[4] 鶴岡真弓著「装飾の神話学」 河出書房新社出版 2000
[5] 海野弘著「装飾空間論―かたちの始原への旅―」 美術出版社，1973
[6] 新建築　新建築社，2008－2013
注）
[1] 鶴岡真弓著 「『装飾』の美術文明史――ヨーロッパ・ケルト、イスラームから日本へ―」日本放送出版協会出版，2004
[2] R・ベンチューリ，石井和紘・伊藤公文訳「ラスベガス」鹿島出版会 1978
[3] H・ヴォリンゲル，草薙正夫訳「抽象と感情移入―東洋芸術と西洋芸術―」 岩波書店，1953
[4] H・リード，勝見勝・前田泰次訳「インダストリアル・デザイン」みすず書房刊，1957